


施策評価調書〔途中評価(平成30年度実施)〕

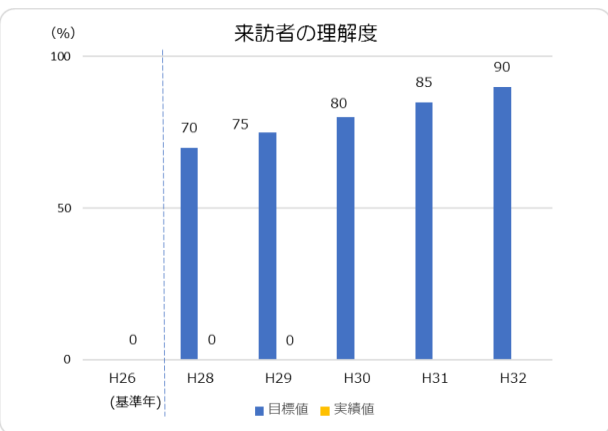
政策横断プロジェクト

政策横断 プロジェクト名	世界文化遺産プロジェクト～日本、世界にその価値を伝え、活かす～	作成年月日	平成30年10月26日	長崎県総合計画記載ページ	154	P	
		主管所属	文化観光国際部観光振興課				
		課(室)長名	課長 佐古 竜二				
		施策関係所属 (部局名課名)	文化観光国際部文化振興課 世界遺産課 国際観光振興室 物産ブランド推進課、 企画振興部新幹線・総合交通対策課				

1 プロジェクトの内容

<p>【取組の概要】</p> <p>ホームページ等による情報発信の充実、教会堂見学の事前連絡や教会守配置による秩序ある公開の仕組みづくり、駐車場やトイレ、Wi-Fi環境及びサイン等の受入基盤の整備、二次交通アクセスを組み込んだ着地型旅行商品開発など、来訪者の受入体制を整備する。</p> <p>また、2つの世界遺産のテーマやストーリー性を活用したキリスト教関連文化遺産群による魅力発信、広域周遊、滞在型観光、巡礼ツアーなど、国内外からの観光客誘致、また世界遺産に関連したお土産品の開発促進による県産品の販売や消費拡大対策など、世界遺産登録による波及効果の活用を図る。</p>		<p>【将来像】</p> <p>世界遺産の価値を国内外に発信し、構成資産の周辺地域の人々やその営みに触れる機会を提供することで、世界遺産を守り維持する地域社会の基盤を強め、世界遺産が持つ顕著な普遍的価値を永続的に維持していく。</p> <p>多地域に点在する世界遺産が持つ歴史と魅力を、他の観光資源とストーリーで結び、観光客の広域周遊かつ滞在型観光を促進し、併せて受入環境を整え、県全体の地域活性化へ結びつける。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 プロジェクトの進捗状況と評価

施策の進捗状況の評価																						
<input type="checkbox"/> A：順調 <input checked="" type="checkbox"/> B：やや遅れている <input type="checkbox"/> C：遅れている																						
<p><<これまでの成果>></p> <p>①教会等での受入対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インフォメーションセンターでは、センター内でのWi-Fi環境の整備や外国人対応スタッフの配置、JNTO外国人観光案内所の認定(カテゴリ-2)を取得するなど、体制強化や継続した周知向上に努めている。 ●教会堂見学の事前連絡制の実施や教会守の配置等により、生活・信仰と観光との調和に向けた取組を進めている。 ●構成資産保護のための基金を設け、県内外に広く寄附を呼び掛けている。この基金を活用して、文化財修復における所有者負担の軽減を図っている。 <p>②歴史的・文化的価値を活用した魅力創出対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「教会群」登録推進時よりミュージアム連携促進モデル事業を実施(平成24-26年度)。その成果として企画展「聖母が見守った奇跡」(平成27年2-4月)及び欧州での展示会(平成27年度)を開催。「潜伏キリシタン」登録推進時には、新上五島町と中核施設が連携して小企画展を開催(平成29年度)。登録後の平成30年度は、より深い理解をめざし長崎歴史文化博物館、長崎県美術館でそれぞれ企画展、小企画展を開催予定。 ●長崎歴史文化博物館奉行所展示室のリニューアルに伴い、「潜伏キリシタン」登録を記念したキリシタン展示コーナーの拡充準備(平成29年度)、平成30年度末オープン予定。 ●「近代化遺産」についても、登録記念として中核施設等に企画展を開催。 ●その他、専門職員へのノウハウ移譲事業を関連施設(旧出津救助院等)を対象として実施。HP歴史文化ネットや情報誌『ミュージアム県ながさき』にて関連施設を紹介。 ●世界遺産遺産センター(仮称)について、調査研究機能の具体的な実現に向けた調整を長崎歴史文化博物館と進めている。情報発信・意識醸成の機能に関しては、潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンターに展示整備を行い、基本構想で示された候補地における設置についても検討を進めている。 ●「長崎と天草地方のキリスト教関連文化遺産群」については、構成資産以外の市町とも連携・協力し、登録資産は130を超えるものとなった。 	<div style="text-align: center;"> <p>来訪者の理解度</p>  <table border="1"> <caption>来訪者の理解度 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26 (基準年)</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>70</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>75</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>80</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>85</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td>90</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>※世界遺産への登録は平成30年度を予定しているため、平成29年度は、イベントや講座等の参加者へのアンケート調査を実施し、理解度の把握に努めた。 世界遺産登録後については、来訪者へのアンケート調査を予定している。</p>	年度	目標値	実績値	H26 (基準年)	0	0	H28	70	0	H29	75	0	H30	80	0	H31	85	0	H32	90	0
年度	目標値	実績値																				
H26 (基準年)	0	0																				
H28	70	0																				
H29	75	0																				
H30	80	0																				
H31	85	0																				
H32	90	0																				

③受入基盤整備（外国人観光客対策含む）

●「潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録を契機として、離島地域においては、県内外からの投資により、次々と新たな宿泊施設が新設されているほか、観光客を対象とした「漁師食堂」などの新たな飲食施設も開設もされている。さらに、世界遺産の案内板の設置、多言語パンフレットの作成、「五島列島キリシタン物語」など関係市町が連携した着地型旅行商品の開発、地域ガイドの育成など市町が取り組む受入体制整備の取組に支援したほか、世界遺産の価値を伝える「巡礼ガイド」の育成に主体的に取り組む団体に支援することで、平成29年度末現在、84名が「巡礼ガイド」として認定されている。

●外国人観光客の受入体制の整備については、平成27年度から平成29年度にかけて、県の補助制度により、民間事業者や交通事業者等が行なう案内板等の多言語化やWi-Fiの整備などに対する支援を行ったほか、平成30年度から多言語コールセンターの運用を開始し、言語の壁のないストレスフリーな旅行環境の提供を図っている。

④二次交通アクセス

●五島地区において、チャーター船やタクシーを活用して構成資産を効率的に周遊する着地型旅行商品「五島列島キリシタン物語」の催行を積極的に支援したほか、県内の旅行会社、交通事業者、観光団体、観光関連事業者など52企業・団体からなる「長崎めぐり旅ビューロー」を設立し、構成資産や関連資産を効率的に周遊し、地元ならではの食事や体験プログラムを組み合わせた着地型旅行商品「キリシタン紀行」6商品を開発・催行するなど、観光客の利便性向上や観光による経済効果の波及に取り組んだ。

●生活交通補助路線維持のための生産性向上の取組として、路線バスで世界遺産を周遊できる乗車券の企画等を推進している。

⑤観光客の誘客対策

●観光客が県内をスムーズに周遊できるように、着地型旅行商品の造成を図るとともに、その販売を促進するため、発地においてワンストップで予約から購入までができるWEBサイトを開設した。また、着地においては、観光客がストレスなくスムーズに周遊できるよう、複数の公共交通機関を利用し最適な経路検索結果を示すサービスの提供を観光ポータルサイトながさき旅ネット内で行った。

●韓国、フィリピンからの巡礼客誘致に向けて、神父や巡礼ツアー取扱旅行社等の招聘、現地観光展への出展等を行った。その結果、平成29年度の巡礼ツアー受入は、統計を取りはじめて以来、約10倍に増加している。

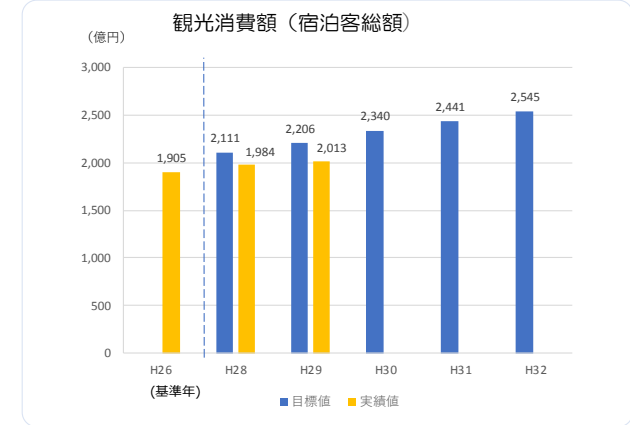
●九州の横軸である大分県、熊本県と連携し、「キリシタン」をテーマにした横断周遊のモデルコースを作成したほか、旅行会社を対象とした旅行商品の造成支援を行った。

⑥県産品の販売、消費拡大対策

●県内事業者の新商品開発の促進等を目的に、毎年開催している「特産品新作展」において、平成27年度から世界遺産特別賞を設けている。また、受賞商品については、メディアを活用したPRや都市圏及び県内の百貨店等での物産展での販売を実施するなど、世界遺産にかかるお土産品の新商品開発の促進を図ったことにより、新たな商品数は目標値に比べ420%となった。

<<進捗状況に課題が見られる分野>>

●「潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産がない地域への登録効果の波及がまだ十分ではない。



3 プロジェクトの数値目標の進捗状況

指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	進捗状況の分析
来訪者の理解度	目標値①	/	70.0%	75.0%	80.0%	85.0%	90.0%	90% (H32年度)	世界遺産への登録は平成30年度を予定しているため、平成29年度は、イベントや講座等の参加者へのアンケート調査を実施し、理解度の把握に努めた。世界遺産登録後については、来訪者へのアンケート調査を予定している。
	実績値②	-	-	-	/	/	/	進捗状況	
	②/①	/	-	-	/	/	/	-	
観光消費額 (宿泊客総額)	目標値①	/	2,111億円	2,206億円	2,340億円	2,441億円	2,545億円	2,245億円 (H32年)	平成28年の熊本地震の影響からは回復しつつあり、延べ宿泊客は対前年比2.7%の増加となったが、過去最高を記録した平成27年には届いていない。宿泊客観光消費額についても、対前年比2.4%の増加となったものの、目標を達成できなかった。
	実績値②	1,905億円 (H26年)	1,984億円	2,013億円	/	/	/	進捗状況	
	②/①	/	93%	91%	/	/	/	やや遅れ	

4 新たな課題や社会情勢の変化等

- イコモスの助言や国の指導を受けて、構成資産を教会群から集落に見直したことに伴い、集落を未来へと保存・継承していくために、それぞれの地域において世界遺産を契機とした持続可能な集落づくりが必要となる。
- 構成資産保護のための基金について、目標額の達成に向けて、より一層の寄附を集める必要がある。
- 世界遺産の登録効果を構成資産の所在する市町以外の県内全域に広げていくため、「長崎と天草地方のキリスト教関連文化遺産群」を活用した取組が必要である。
- 構成資産については周知がなされているが、周辺の博物館等の関連施設については、認知度が低い施設が多く、また施設によって規模や運営体制等がまちまちである。
- 長崎歴史文化博物館奉行所展示室キリシタン関連展示のリニューアルオープンを予定（平成30年度末）。
- 世界遺産の受入体制は、これまでも官民一体となって取り組んできており、一定の整備は進んでいると考えているが、世界遺産としての価値を伝えるガイドについては、今後の来訪者の増加や集落の過疎化、高齢化により不足することが懸念される。
- 「2020オリパラ」に向けた国の積極的なインバウンド施策などにより当初の予想を超えた外国人観光客が日本を訪れているが、本県への取込の余地があり、外国人観光客の受入体制の整備を強化する必要がある。また、国内外からの富裕層の確保による観光消費単価の増額を図っていく必要がある。
- 平成29年に国境離島新法が施行され、離島における滞在型観光促進の取組が加速しているが、地元の観光協会などが主体となった観光地の魅力づくりや受け皿づくりが遅れている。
- 着地型旅行商品を造成し、ワンストップで予約から購入までができるWEBサイトを開設したが、周知がまだ十分でない。
- 「特産品新作展」世界遺産特別賞受賞商品について、メディアを活用したPRや都市圏及び県内の百貨店等での物産展での販売を実施しているが、世界遺産関連商品の販売拡大に向けさらなる取組が必要である。



5 課題を踏まえた今後の対応方針

- 庁内で政策横断的に取り組む集落支援プロジェクトの中で、構成資産エリアを集落支援の対象地域に加え、世界遺産の保護という観点も踏まえた地域活性の取組を推進していく。
- 多くの寄附が構成資産の保護につながるという趣旨の周知に努め、あらゆる機会を通じた寄附の呼び掛けを実施していく。
- 「長崎と天草地方のキリスト教関連文化遺産群」の活用につながるようなガイドラインを作成し、県内市町の周遊対策等の取組を促進していく。
- 構成資産周辺の博物館等の関連施設についても来訪者の一定の満足度が得られるよう人材育成等の面で支援していく。また、その一環として、各施設の企画・運営力の向上を目指し、中核施設と連携し小企画展事業を継続実施していく。
- 長崎歴史文化博物館奉行所展示室キリシタン関連展示リニューアルオープンを受け、修学旅行生を中心とした周知を行う。
- これまで長崎巡礼センターを通じて取り組んできた巡礼ガイドの確保・スキルアップ等に加え、集落の過疎化やガイドの高齢化に伴う人材の不足の懸念に対応するために、担い手の確保等について関係市町と連携しながら取り組んでいく。
- 平成30年度から多言語コールセンターによる電話通訳サービスの提供を開始しており、構成資産の所在する県内市町の観光案内所等での利用を促進する。
- 既に開発した着地型旅行商品については、大手旅行会社へのセールスを強化するとともに、一般向けには商品を販売するWEBサイトの周知を強化する。また、新たな商品造成とあわせて既存商品の見直しも行き、観光客が利用しやすい商品にする必要がある。
- 長崎県特産品新作展において、引き続き2つの世界文化遺産関連商品にかかる特別賞を設けることにより、事業者の商品開発意欲を高めるとともに、魅力ある新作展を企画・実施していく。

6 プロジェクトを推進する主な事業の状況

番号	事業名	所管課	平成30年度予算額 (千円)	事業概要
1	世界遺産情報発信事業費	世界遺産登録推進課	39,535	「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産としての価値を県内外に周知・理解してもらい、構成資産を守っていくという意識の醸成を図るため、パンフレットやDVD、グッズ等の作成及びウェブサイト等の新たなツール作成及び既存のツールを活用し、策定した情報戦略に基づき、関係県市町が連携して情報発信を行う。
2	長崎県美術館企画展特別経費	文化振興課	10,000	世界文化遺産登録を記念して、長崎県美術館にて天正遣欧少年使節をテーマとした企画展を開催。国内外の関連資料を展示し、長崎におけるキリシタン史と文化に対する理解を深める。
3	文化施設改修等整備費(内、展示室改修作分)	文化振興課	10,584	長崎歴史文化博物館奉行所展示室改修に伴い、キリシタンコーナーの拡充及び「潜伏キリシタン関連遺産」の紹介を行う。
4	世界遺産受入体制整備促進事業費	観光振興課	6,650	「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録を受け、ツアー客の受入（ガイド手配）やガイド養成等の受入体制のさらなる向上を図る取組を支援する。
5	外国人受入環境パワーアップ事業費	観光振興課	10,160	本県を周遊滞在中の外国人観光客に、言語の壁のないストレスフリーな旅行環境を提供し、外国人観光客のさらなる増加を図るため、多言語コールセンターの設置・運営を行う。
6	周遊観光スマート化推進事業費	観光振興課	36,373	点在する構成資産等をスムーズに周遊できる着地型旅行商品の造成を図るとともに、発地において購入しやすい環境づくりを行う。また、「世界遺産めぐり手帖（仮称）」を作成・販売することでリピーターを確保し、世界遺産登録効果の持続を図る。着地においては、県内の交通結節点における案内環境を整備することにより、観光客がストレスなく周遊できる観光地づくりに取り組む。

7	戦略的情報発信事業費	観光振興課	39,231	Webの強みであるターゲティングの要素を取り入れ、効果的な情報発信を行う。また、その後の行動分析等を行うことで、次の展開に活かす内容とし、PDCAサイクルを取り入れた好循環型の情報発信を目指す。
8	売り込もう長崎の県産品事業費	物産ブランド推進課	8,969	特産品新作展等で入賞した県産品を中心に、新規開発賞品の販路拡大のため、都市圏及び県内等において商品のPR・売込みを行なう。